

令和2年度七宗町教育委員会の点検・評価結果総括表

No.	項目・目標	事業等	活動内容	成果・課題等	評価
1	教育委員会活動 目標:教育委員会の活性化	教育委員会会議	年間7回の教育委員会会議を実施。 11月6日に町長との七宗町総合教育会議を実施。	令和3年度使用中学校教科用図書の岐阜県可茂地区採択協議会での選定に対し採択の決定を協議した。また、教育委員会全体の問題点や課題について意見交換をし、情報の共有化を図った。 11月6日に総合教育会議を開催し、七宗町の教育全般について意見交換をした。	A
		調査及び研修		教育委員の自己研修を行うため毎年各種研修などに出席していたが、新型コロナウイルス感染症拡大防止対策のため中止となり参加できなかった。(加茂郡教育振興協議会・加茂郡地教連教育施設等研修視察・岐阜県市町村教育委員会連合研究総会・可茂地区市町村教育委員研修会等)	—
		学校訪問・行事等の参加	保育園、小中学校への教育委員訪問を行い、教育現場の状況の把握、今後の指導・講評等を行った。	新型コロナウイルス感染症拡大防止対策のため、各種式典・行事が中止や規模縮小により出席することができなかった。 学校訪問は実施することができ、学校等の状況を把握し、指導・講評を行った。 加茂郡体育大会も中止になったため社会体育の状況を見ることができなかった。	B
2	義務教育振興事業 目標:安全安心な教育環境	心の相談・スクールガードリーダー及び教科支援員の配備	各校の状況に応じ相談員・支援員・スクールガードリーダーを配備し安全・安心な学校生活を送れるよう環境を整えた。	心の相談員、教科支援員の研修を通じて危機管理に対する意識を更に深めた。スクールガードリーダー事業を町単独で実施している。	A
		山村留学制度	町ホームページ・イベント等で山村留学のPRを行った。	問い合わせは数件あるが、移住はない。今後もPRを続けていく。	B
		校長会・教頭会等の負担金及び研修・大会への補助金交付	各種研修会の負担金を交付し、教員の指導力アップと特色ある教育活動の推進に役立っている。	負担金の交付により、教員の指導力アップや教育の振興を図った。コロナウイルス感染症拡大防止により集合研修からオンライン研修に変更し行った。	A
		教職員住宅の施設管理	教職員住宅の維持管理を実施した。 上麻生:雨漏り、トイレ修繕 神淵:雨漏り、給湯器修繕 年2回の草刈りを実施	上麻生教職員住宅は雨漏りとトイレの修繕、神淵教職員住宅は雨漏りと給湯器の修繕をした。 シルバー人材センターへ委託し草刈りを実施した。	A
		ALT事業	保育園から中学生までを対象に英語指導助手を配置した。	英語の補助として、教職員や児童生徒に好評で、グローバル化に対応した指導が実践されている。英語の授業数の増加に対応できるようALTを1名増員し2名配置した。	A

令和2年度七宗町教育委員会の点検・評価結果総括表

No.	項目・目標	事業等	活動内容	成果・課題等	評価
		特別支援教育就学奨励事業・ 準要保護児童生徒援助事業	小中特別支援学級通級者の保護者に対し学用品・ 給食費・旅行費等を援助する。準要保護児童生徒を 認定し通学用品・学用品・給食費・修学旅行費を援 助する。	特別支援教育就学奨励事業につきましては、5名の 保護者に援助した、準要保護児童生徒援助事業に ついては、17名の保護者に援助した。	A
		通学バス運営事業	通学距離によりスクールバス2台及び路線バスを利 用している。	登下校時の安全性を高め、児童生徒が安心・安全に 登下校できるよう今後も継続していく。また、コロナウ イルス感染症対策としてバス内が密にならないように、 増便対応をした。	A
3	学校施設管理事業 目標:安全安心な教育環境	教育施設の維持管理	小中学校に通信ネットワークを整備しタブレットを充 電しながら保管できる電源キャビネットも整備した。そ の他、小学校の理科室や通級教室などに空調設備 設置工事を行った。小学校2校は老朽化が進み施 設等の修繕が必要。中学校2校は築後20年を迎え ようとしており設備等の修繕ができてきている。	小学校2校については、1,670万円余りの小規模工事 や修繕を実施した。また、中学校2校についても、372 万円余りの小規模工事や修繕を行い機能強化に努 めた。この他に、神淵小学校プールの更衣室、トイレ の建物がひび割れ等により、危険であるため、その建 物を通らずプールへ入れるように入出口を設置しまし た。	A
		給食施設	学校給食衛生管理基準により、安全安心な給食を供 給できるよう努めている。	調理員に対する衛生管理研修等に参加予定だった が、可茂地区や県の研修が新型コロナウイルス感染 症のため開催されなかったため、センター内で食中 毒・異物混入の防止対策など確認を実施し安全な給 食提供を行った。基準に適合するよう定期点検による 施設の維持管理を適切に実施しているが、今後機械 装置の耐用年数を考慮し、施設運用を行う必要がある。	B
		学校給食運搬事業	シルバー人材センターに委託している。	配送運転手の安全運転の徹底及び給食配送時の衛 生面に厳重な注意を払うことにより、安全安心な提 供を可能とした。配送車両の老朽化により更新を検討 する必要がある。	A
4	小中学校教育指導全般 目標:感動ある学校教育の 実現を目指す支援の充実	学校教育の方針と重点	学校教育の方針と重点について、各校で評価し課 題や問題等を明確にし感動の教育実現のための具 体的方向を確認し実施した。	新型コロナウイルス感染症拡大防止のため4、5月2ヶ 月間の「臨時休校」を強いられた。しかし、各校におい てコロナ禍の中で教育活動を工夫しながら進めた。自 校評価・学校評価等においても、「学校生活への充 実」については大きくポイントを上げていない。今後 も、地域とともにある学校としての成果や課題を明確 にし、国や県の教育の方向をもとに、教育長、教育委 員会の方針にそって、「感動の教育」の実現のために 改善を図る必要がある。	B

令和2年度七宗町教育委員会の点検・評価結果総括表

No.	項目・目標	事業等	活動内容	成果・課題等	評価
		教科・生徒指導、教育相談、特別支援教育に関すること。	基礎学力定着支援事業11年目になり、プロジェクト委員会を中心に町4校の研究実践を継続。今年度より小学校の学習指導要領実施、令和3年度中学校の学習指導要領完全実施を受け、新しい時代を生きる子供たちに必要な力をどのように育てるかを意識した授業実践に取り組んだ。問題行動や不登校の対応を継続し、特別支援教育も保・小・中の繋がりにより支援強化を図った。	感染拡大防止のため、4校の職員の授業実践を学び合う場が持てなくなった。研究実践校による町の公表会も中止した。しかし、各校において新学習指導要領で整理された「3つの柱」と七宗町の基礎学力とのかかわりについて、捉えなおす機会となり、「主体的・対話的で深い学び」を取り入れた各校の授業実践は継続して積み上げた。いじめ事案の認知件数は小学校16件(元年度5件)、中学校2件(元年度2件)と小学校の認知件数が増えたが、法令をもとにした「いじめ認知」の考え方が先生方の意識を高くしている成果ととらえる。不登校の児童生徒は小学校2名、中学校0名(不登校傾向3名)いるが、町教委と学校、町相談員と連携を図り、組織立って関わっていき、少しずつ改善を図ることができた。	A
		進路指導・図書教育	発達段階による生き方・キャリア指導ができた。子ども読書活動推進計画(三次計画策定1年目)がスタートした。	地域の方に積極的に園・学校に入ってもらうことができなかった。しかし、中学校の「ようこそ先輩」講話として、地域の人材を生かすことを通して、子どもたちが将来の生き方を考える機会をICTを活用した「オンライン講話」という新しい形で実現させた。図書館教育では、これまで行ってきたボランティアサークルによる「読み聞かせ」ができなかった。学校図書館教育賞は、令和3年度より神淵中学校を推薦していく。	B
		学校保健・安全	養教部会中心に保健事業、保健活動の交流ができた。望ましい生活習慣の定着によりすっきりお目ざめキャンペーンを小中合同で実施した。	4校がそろって「早寝早起き朝ごはん」「ノーメディア」に取り組み、家庭も巻き込んだ形でキャンペーンを実施できた。しかし、4月の町教振総会やPTA総会、学級懇談会の中止が続き、すっきりお目ざめキャンペーンの取組を町内教職員・保育士、保護者で共通理解を図ることが十分にできなかった。朝食を毎日食べている:小中とも9割 家で学校の復習をしている:小中とも9割以上と高い割合を示す一方、休日や長期休業中のメディアに触れる時間が増えていることへの対策を今後考えていく必要がある。	B
		社会科副読本の策定	令和3年度末「わたしたちの町ひちそう」九訂版策定完了を目指し、編集作業を実施した。	学習指導要領改訂に伴い、これまでの副読本を全面改訂するため、年間2回の委員会を3回に増やして、編集作業を進めた。2ヶ月の臨時休校中を利用し、2小学校の教頭先生を中心に編集を進めた。九訂版発行に向けて、令和3年度に予算計上(143万/100冊)。	A

令和2年度七宗町教育委員会の点検・評価結果総括表

No.	項目・目標	事業等	活動内容	成果・課題等	評価
		学校教育振興会に関する事	総会と町公表会は中止とした。公表会については、学校内で自主研究会として発表した。校長会をはじめとした各部会は例年通り情報交流など感染防止に努めて活動できた。	総会で教育長から町内職員に対して講話をすることができなかった、神淵中学校の公表会は、参加者をしぼり実施した。また、校長会、教頭会、教務主任会等、年間40近くの会を行い、情報の共有、方向性の確認を行うことができた。	B
		児童生徒の就学・転出入に関する事。 スポーツ振興センター事務に関する事。	学校教育法の定めにより適正に処理した。 日本スポーツ振興センターの定めにより適正に処理した。	事務処理等、適正かつ円滑に処理した。JAめぐみの上麻生支店での取引ができなくなることで、保護者口座への災害共済給付金振り込みに手数料がかかることで神淵支店での取引になり、事務処理に時間がかかる。令和3年度は、保護者への給付金処理をスムーズにするために事務手続きの仕方を改善する。	B
5	子育て支援事業 目標:子育て支援の充実	保育園に関する事	<ul style="list-style-type: none"> 町広報誌、ポスター、各通信等で入園の情報を提供し、途中の入園も随時受け付ける。 多子世帯の経済的負担の軽減を図るため、対象者に対する減免を行う。10月より3歳以上の保育料が無償となり、副食費も無償となった。 両園、防犯カメラを一台ずつ購入し、取り付けた。 老朽化が進み、設備等の修繕が必要。第1保育園で屋根塗装工事を行った。 	<ul style="list-style-type: none"> 子ども・子育て支援制度について保護者理解も定着してきて、入所手続き等的確にすることができた。 3歳以上児の園児数に比べ、未満児の保育利用が増えてきている。今後は、未満児の待機児童も出てくる可能性がある。保育室の改善や職員の増数も必要になってくるのではと思われる。 	B
		乳幼児期家庭教育学級	<ul style="list-style-type: none"> 学級の一本化に伴い、神淵・上麻生両地区から役員を選出し、親の交流に重点を置き活動内容を計画する。 子育て支援センターや保育園家庭教育学級とも連携して活動内容の充実に努める。 	新型コロナウイルス感染症防止対策のため、計画通り行事を行うことが出来なかったが、三密に気をつけ、子育て支援センターと連携をとりながら、活動内容を工夫して進めることができた。	A

令和2年度七宗町教育委員会の点検・評価結果総括表

No.	項目・目標	事業等	活動内容	成果・課題等	評価
		児童クラブに関すること	<ul style="list-style-type: none"> ・各小学校区に、放課後児童クラブを設置し実施する。 ・放課後児童支援員認定資格研修や各種研修への積極的参加を呼びかける。 ・新型コロナウイルス感染症対策に伴い小学校が臨時休校となり、3月6日より、学校開放型学童を神淵小・上麻生小に開所した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・放課後児童クラブの利用者は、上麻生地区のみであった。 ・夏期・春期児童クラブの利用希望者を1年生から6年生までの受け入れにして実施。夏休みが短かったため希望人数より利用者の数は減った。感染症対策には十分注意して行うことができた。 	B

令和2年度七宗町教育委員会の点検・評価結果総括表

No.	項目・目標	事業等	活動内容	成果・課題等	評価
		要保護児童・DVに関すること	・代表者会議を開催し現状の周知をした。また、継続案件について関係機関との連携を密にする。	・代表者会議にて中濃子ども相談センター長の講話を聞き、管内の虐待やDVの状況が確認できた。今後も、他機関との連携を密にし、町内の情報を共有し、対応していきたい。	A
		子育て支援センターに関すること	・支援事業に未就園児親子が気軽に参加し、子育て相談ができるように努める。 ・託児ボランティアと親子が集い安心して託児利用できるようにする。	・様々な事業に参加する親子が増えた。 ・新型コロナウイルス感染症防止ため、託児ボランティアの利用を中止した。 ・年齢別のりんごクラブでは数回合同にし、地域に向き施設を利用した事業内容を計画したが、新型コロナウイルス感染症防止のため中止になった。	A
6	社会教育全般 目標:生きがいと感動できる自己実現を目指す社会教育の推進	社会教育審議委員会、公民館運営委員会、木の国七宗コミュニティセンター運営委員会に関すること。	令和2年度は1回の合同会議を開催した。	合同で会議を開催したが、可茂地区や県の研修が新型コロナウイルス感染症のため開催されなかったため参加できなかった。	B
		社会教育施設維持管理に関すること。	各施設の保守・点検を行い維持管理を行った。必要に応じ施設の修繕や備品整備を行った。	神淵コミュニティセンター空調設備更新工事及び自動ドア取付工事等を行った。	A
		予算に関すること。	各事業等精査を行い経費削減に努めている。	予算管理を徹底し適正に予算を執行しているが、施設の老朽化に伴い修繕箇所が増えてくる。	B
		子ども会育成会に関すること。	子ども会育成会で指導員会を行った。	林間学校や子どもフェスティバルは開催を検討したが、新型コロナウイルス感染症のため中止となった。	-
		成人式に関すること。	神淵コミュニティセンターにおいて成人式を行い、上麻生中卒業生16人、神淵中卒業生10人の参加者であった。	新型コロナウイルス感染症のため、式典を短縮して行った。また恩師との懇談も中止とした。	B
		立志のつどいに関すること。	神淵コミュニティセンターにおいて神淵中11人、上麻生中5人の中学2年生が将来への志を述べた。	中学2年生の生徒は志を立派に述べていたが、新型コロナウイルス感染症のため、保護者のみの参観となった。	B
		文化協会に関すること。	文化協会は8団体(会員63名)で活動した。	高齢化等により年々会員が減少している。また、令和2年度は新型コロナウイルス感染症の影響で、視察研修及び文化のつどいが行えなかった。	B
		文化財保護に関すること。	国指定2件、県指定4件、町指定15件の文化財保有。国指定文化財保護巡視員(土屋茂氏)により巡回活動を行ってもらう。文化財審議会を開催した。	文化財審議会を1回開催し文化財の巡回を行った。また、町内文化財等の見学を文化財審議会委員の方で行った。	B
		民俗資料保存に関すること。	旧診療所に保管してあったが、旧診療所解体とともに里山クラブに維持管理を委託して、現在葛屋の倉庫に保管してある。	里山クラブに委託し、品番の整理や補修を行った。	A

令和2年度七宗町教育委員会の点検・評価結果総括表

No.	項目・目標	事業等	活動内容	成果・課題等	評価
		視聴覚に関すること。	可茂広域行政事務組合視聴覚ライブラリーは26年度に廃止されたが、DVD・16ミリフィルム・VHSは美濃加茂市や可児市が引き継ぎ、市町村の行事で活用することが出来る。	今のところは美濃加茂市・可児市が引き継いでいるが、16ミリフィルムなどは劣化するため子どもたちの記憶に残るように意識的に活用できるように務めたい。	C
7	生涯学習の推進 目標:生涯学習講座など住民や会員の要望を受け入れながら自主的な学習活動の充実	生涯学習講座の計画に関する こと。	アンケート結果により、木の国七宗コミュニティーセンターで15講座、神淵コミュニティーセンターで2講座の計17講座開催した。	町独自の生涯学習講座を募集し、各講座の活力増強を図る。新規の講座ばかりで無く同じ講座の継続の要望があり、七宗町でしかない「ふるさと探訪」講座もあるため受講者が多く集まり歴史や自然とのふれあいがあった。	A
		生涯学習まつりに関すること。	神淵地区・上麻生地区ともに、新型コロナウイルス感染症の影響で中止になった。 神淵:2/20, 21(2日間)中止 上麻生:2/27, 2/28(2日間)中止	神淵地区・上麻生地区ともに実行委員会と協議した結果、新型コロナウイルス感染症の影響で中止になったので、今後新型コロナウイルス感染症の状況を見て開催して行きたい。	-
		いきいきセミナーに関する こと。	「体を動かしたり・料理を作ったり・町外でいろんな体験をしたり！心と体の健康づくりを図り、仲間と楽しく学びましょう。」を目的に参加者を募り、57名の申し込みがあった。	大勢の申込者があったが、新型コロナウイルス感染症のため2回を開催したのみで中止となったが、多くの方の申し込みがあったということは興味のある教室を計画できた。	A
		図書室・図書の購入に関する こと。	七宗町子ども読書活動推進委員会や可茂地区公民館図書室、県図書室と連携し意見交換した。神淵コミュニティーセンター図書室ではキッズスペース、木の国七宗コミュニティーセンター図書室では学習スペースを充実させ、それぞれ新たに200冊以上の図書を配架し配置換えや整理を行った。	新刊の入荷や活用について広報のしゃくなげで周知をしている。学校図書室との連携を強化し双方が有効活用できるようにしている。	A
		家庭教育学級 1. 手引きの作成	「家族みんなで、心豊かでたくましい子に育てよう」を町の実践主題として各学級の方向を確認し、課題を掲げ活動を計画し、運営するよう依頼した。	新型コロナウイルス感染症のため開催できなかった行事もあったが、開催することができた学級では、親子や同年齢の子をもつ親同士の交流を深めることができ、子育ての悩みや不安などを気軽に話し合うことが出来た。	B
		2. 保小中の計画・実施の管理	それぞれの単位で運営を行った。保育園と中学校は全保護者対象に小学校は1年生の保護者を中心として行っている。	各学級とも実施計画書の確認をしているが、後は園長・教頭任せになっている。コロナ禍でも各学級新型コロナウイルス感染症に配慮し家庭での実践を多くし工夫して取り組んでもらった。	A

令和2年度七宗町教育委員会の点検・評価結果総括表

No.	項目・目標	事業等	活動内容	成果・課題等	評価
		3. 乳幼児期家庭教育学級との連携	家庭教育学級は親28名、子35名で実施した。乳幼児期子育て推進委員会を定期的に行い状況把握や情報共有した。しつけを共通の課題とし取り組んでいる。	令和2年度は新型コロナウイルス感染症のため、連携した行事はできなかったが、今後も状況把握や情報共有をして連携をとっていきたい。	B
		青少年育成町民会議 1. 青少年育成町民会議の基本方針の作成	家庭・学校・地域住民が相互に連携しつながりを深め、青少年の手本となるようモラルの向上に努め、地域の教育力の向上を高めるように努力している。	コロナ禍ではあったが、各部会を中心に活動できた。	A
		2. 各部会の活動と実態の把握	3部会で組織し、総会及び各部会を開催した。青少年部会：部会、家庭教育部会：家庭の日のPR・読書の啓発、地域部会：安全研修会を開催した。	3部会とも開催できたが新型コロナウイルス感染症のため開催できなかった行事もあった。地域部会の安全研修会は講師に大禅寺住職の根本一徹氏を招いて「カラダとココロの健康」を演題に開催し、多くの町民に聞いてもらった。	A
		生涯学習情報誌の発行 1. 地域の情報収集と情報提供	いきいきセミナーの行事等を「しやくなげ」に掲載した。また、写真による記録に努めた。	情報収集・情報発信ができた。HP等を活用し今まで以上の情報発信に心がける。	B
		2. 生涯学習・家庭教育の推進	学びのとびらホームページや冊子に講座を掲載した。また、各種行事を取材し記録を残した。	記録写真の活用や資料・PRチラシの作成ができた。データの管理方法を確立する。HP等を活用し今まで以上の情報発信に心がける。	B
		チャレンジクラブの開催 1. 計画と参加者の募集	新型コロナウイルス感染症のため開催できなかった。	今後新型コロナウイルス感染症の感染状況を見て開催していきたい。	-
		2. 講師(町の先生)との連絡及び調整	60名ほど「まちの先生」の登録がある。新型コロナウイルス感染症のため令和2年度は開催できなかったが、講師と連絡を取り合い今後の協力を呼びかけた。	講師と繋がりを持ち意見交換や要望を聞きより活性するように努める。新しい講師も増え発掘に努めているが、講師の中には高齢の方も見えるため、講座等に影響が出る可能性もある。	B
		社会同和・人権教育の現状の把握と推進 1. 研修会・講習会への参加	人権問題は様々な対処が求められるため研修会及び講演会へ参加しようとしたが、新型コロナウイルス感染症のため開催されなかった。	地域の実態や必要性を考慮し諸問題を解決できるような情報を取り入れる。	-
		2. 広報等を利用しての情報伝達	人権として扱う問題は多くあり広報誌等で話題や情報の提供を行う。	様々な問題についてより正確な情報を提供する。	B

令和2年度七宗町教育委員会の点検・評価結果総括表

No.	項目・目標	事業等	活動内容	成果・課題等	評価
8	社会体育 目標:生涯に渡って自らが楽しく実践できるスポーツ活動の推進	スポーツ教室全般に関する事	新型コロナウイルス感染症のため開催できなかった。	今後新型コロナウイルス感染症の感染状況を見て開催していきたい。	-
		スポーツ大会全般に関する事	新型コロナウイルス感染症のため各種スポーツ大会等を開催できなかった。	今後新型コロナウイルス感染症の感染状況を見て開催していきたい。	-
		スポーツ推進委員会に関する事	新型コロナウイルス感染症のため毎月は定例会を開催できなかったが、スポーツ活動の推進や実技指導の実施のため感染状況を見て定例会を開催した。	令和2年度より1名増員でき9名で活動した。新たな委員の確保ができ、今後新型コロナウイルス感染症の感染状況を見てできることから行っていきたい。	A
		体育推進委員に関する事	各地区より2名選任され、役割等を書面で周知した。	新型コロナウイルス感染症のため積極的に各地区での軽スポーツの実施を呼びかけることができなかったが、今後新型コロナウイルス感染症の感染状況を見て呼びかけていきたい。	-
		体育協会に関する事	11種の種目部が登録し活動しており、町長杯など熱戦を繰り広げられた。	部員の高齢化や減少があり大会開催に影響がある。組織の体制強化や部員の確保に努める。町のスポーツ大会開催時には大会運営をお願いしたい。	A
		スポーツ少年団に関する事	3団体(剣道2・野球1)が活動しており、各種大会等に参加した。	少子化・運動離れ等により団活動に支障が出ている。スポーツ少年団の良さを子どもだけでなく、保護者の方にも十分理解してもらうためにPRを強化して入団者確保を図る。	B
		スポーツ振興推進協議会に関する事	14名の委員と事務局で構成。スポーツ振興の検討や大会の運営に協力した。	大会の打合せや結果報告が主となっているので、各団体と意見交換をし検討する。	B
		学校施設開放に関する事	町内スポーツ団体が使用している。施設周辺の方に管理人をお願いし鍵及び使用簿の管理を行ってもらう。	スポーツや地区行事等の会場として有効活用を促している。	B
		スポーツ施設管理及び使用申込調整に関する事	町体育館・開発センターを1日1人の日々雇用職員で管理している。町民運動場の草等の管理はシルバー人材センターに委託した。使用申し込みの重複管理調整は管理人及び事務局で対応した。	施設の老朽化が進んでいるが、安全に使えるように、維持管理していきたい。	B